

近畿北部の中世石造物の概要

崎 山 正 人

2021 8月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

近畿北部の中世石造物の概要

崎山正人

1. はじめに

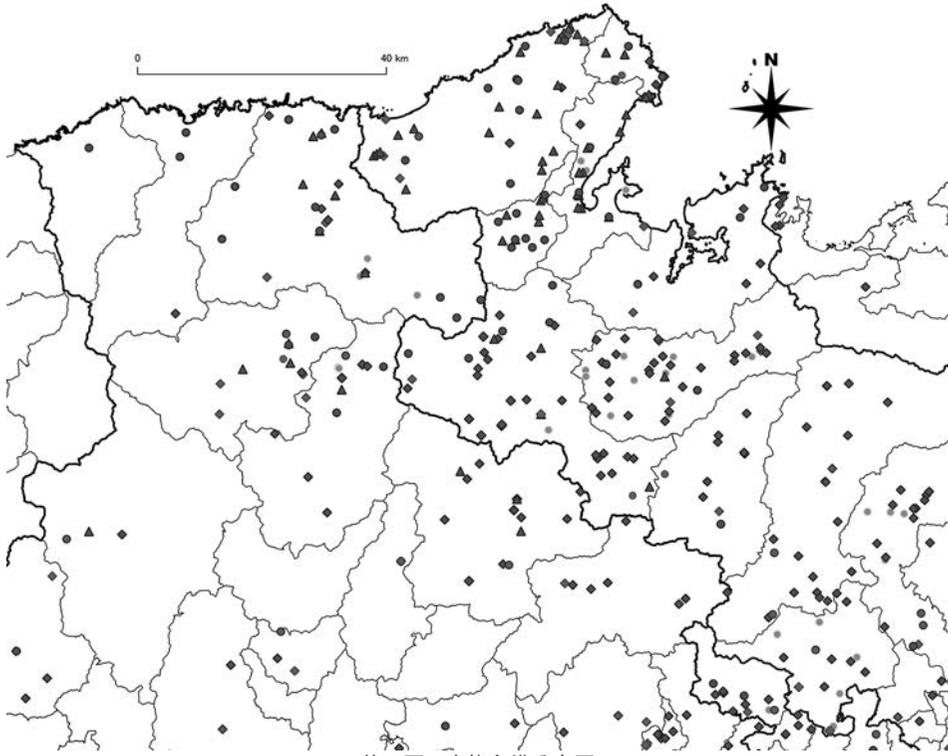
丹後・丹波を中心とする近畿北部の中世史を研究するために、石造物を資料として活用することを考え資料収集を行ってきた。石造物のうち宝篋印塔は各地に普遍的に存在しており、宝篋印塔を中心に資料を収集し分析を進めることとした。

旧国名でいえば丹後・丹波・但馬において現在750基以上の宝篋印塔を確認しているが、整理済みのものは728基で、付表1、第1図に分布と時期をまとめた。

京都府北部の石造物については、京丹後市大宮売神社石灯籠など国の重要文化財に指定

付表1 宝篋印塔国別一覧

	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	不明	
	-1320	1320 -1339	1340 -1369	1370 -1392	1393 -1410	1411 -1504	1505 -1615		
合計	728	8	39	52	93	118	202	173	43
但馬	85	0	3	14	24	12	19	7	6
朝来	17			4	3	2	5	1	2
出石	7		2	4					1
養父	16		1	2	4	1	6	2	
城崎	21			4	9	6		1	1
美含	13				8	2	1		2
七美	7					1	4	2	
二方	4						3	1	
丹後	179	4	23	12	29	32	41	26	12
中	19			3	3	3	8	1	1
熊野	13				2	5	5	1	
竹野	38		3		8	7	6	9	5
与謝	84	4	18	8	13	12	17	7	5
加佐西	9		1	1	3	3			1
加佐東	16		1			2	5	8	
若狭	5	0	0	0	3	2	0	0	0
丹波	459	4	13	26	37	72	142	140	25
天田	137		5	6	13	39	49	24	1
何鹿	85	1	4	1	8	10	13	32	16
氷上	39	1		2	3	2	11	20	
船井	135	2	3	11	6	15	48	49	1
桑田	49		1	5	7	3	18	9	6
多紀	14			1		3	3	6	1
築造数/年			2.0	1.7	4.0	6.6	2.1	2.0	
	100.0%	1.1%	5.4%	7.1%	12.8%	16.2%	27.7%	23.8%	5.9%



第1図 宝篋印塔分布図

●A-0・1・2 / ▲A-3・B-3 / ◆B-01・2・C-1 / ○不明

されているものをはじめ、宝篋印塔、五輪塔、狛犬など多くの石造物が存在している事は知られているが、それらの分布状況や年代観など全体を網羅した報告はこれまでなかった。また、各自治体史や、資料館等の展示などで石造物に関する資料も収集されてきたが継続的で全体を網羅したしたものではなかった。

また、石造物の石材について、年代によって使用される石材が変化することと、技法や様式と石材に関係性のあることが想定された。しかしながら石造物石材について、各文献で岩石種類の記載が異なるものや明らかな誤認もある。

この事もあり、科学的な見識による確認調査の必要性を認識して、先行研究のある帯磁率測定と岩相観察(記録)を行い基礎的な資料の収集と整理を行っている。^(注2)

今回は、宝篋印塔を中心とする石造物の調査を行う中で、副次的に他の石造物についても所在や特徴を確認しており、今後の調査研究にむけてこれまでの調査成果を近畿北部の中世石造物の概要としてまとめておきたい。

対象とする範囲は、旧国でいうと但馬、丹後、丹波で、一部若狭西部(大飯郡)を含めている。令和3年5月現在、兵庫県豊岡市・香美町・新温泉町・養父市・朝来市・丹波市・

付表2 石造物集計表

	宝篋印塔	層塔	宝塔	五輪塔	無縫塔	石幢	笠塔婆	板碑	石仏	燈籠	狛犬	摩崖仏
合計	728	16	2	11	2	8	4	15	9	20	1	2
但馬	85	5	1	1	0	1	1	1	2	0	0	1
朝来	17	3				1		1	2			1
出石	7	1					1					
養父	16											
城崎	21	1	1									
美含	13			1								
七美	7											
二方	4											
丹後	179	4	0	6	0	4	2	10	6	15	1	1
中	19									2		1
熊野	13						1		4	1		
竹野	38					2				2		
与謝	84	4		6		2		10	2	6	1	
加佐西	9									1		
加佐東	16						1			3		
若狭大飯							1	2				
丹波	459	7	1	4	2	3	0	2	1	5	0	0
天田	137			1					1	1		
何鹿	85					1		1				
氷上	39					1				1		
船井	135			3	1					1		
桑田	49	7	1		1	1		1		2		
多紀	14											

篠山市、京都府京丹後市・伊根町・宮津市・与謝野町・舞鶴市・綾部市・福知山市、京丹波町、南丹市、亀岡市、京都市右京区(京北町)の一部、福井県高浜町に該当する。

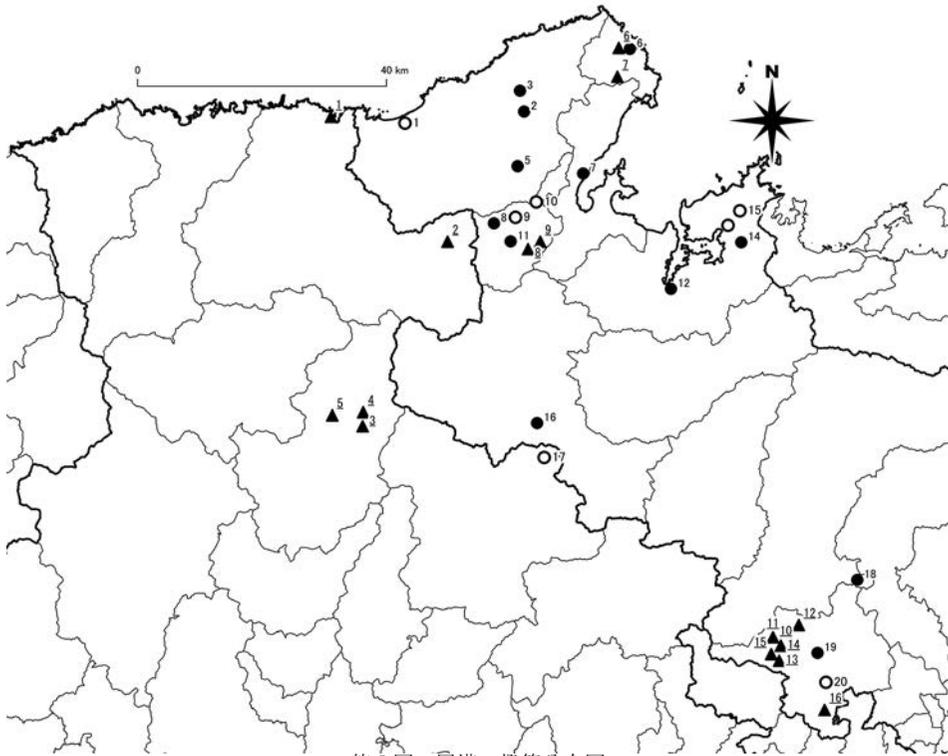
2. 調査方法

自治体史や報告・論文等を参考に、周辺調査を行い現地で実物を確認し、下記の通り計測等の記録を作成している。

所在地の記録として、GISを活用し、座標により記録する。

写真撮影と各部の計測を行い、形状を記録する。

帯磁率測定と岩相観察を行い、石材を記録する。帯磁率測定は、測定機器には携帯型帯磁率計(Terraplus社製KT-10 v2)を使用し、岩相観察はオリンパス社デジタルカメラTG-5を用い石材表面の拡大写真を撮影する。これにより、石材の確認を客観的に行うことが可能となった。



第2図 層塔・燈籠分布図

▲層塔、●燈籠：花崗岩・○燈籠：花崗岩以外

3. 石造物の概要

これまでに確認できた石造物は、層塔、宝塔、宝篋印塔、五輪塔、一石五輪塔、無縫塔、石幢、笠塔婆、板碑、石仏、摩崖仏、燈籠、狛犬などで、主なものを付表2・付表3-1～3にまとめた。層塔、宝塔、無縫塔、石幢、燈籠、狛犬は、表3に示したものが現在確認できているものの全てである。

層塔 16基を確認している。但馬では5基を確認し、津居山の1基は日本海に面した山上にあるが、4基は内陸部にある。

丹後では、4基を確認しているが与謝郡に限られる。伊根来迎寺塔は、屋根材1層と塔身のみが残され、塔身はそばにある宝篋印塔に転用されている。加悦の2例は、高さ(相輪除く)が大虫神社塔96cm、関戸塔91cmと小型である。

丹波では、7基を確認しているが、亀岡盆地西部に限られ、本梅川流域に集中する。

宝塔 但馬1基、丹波1基の2基と少ない。但馬の進美寺塔は塔身高46cmと小型である。

五輪塔 五輪塔は、各地に無数にあってその把握は困難である。しかし、大型のものは非常に少なく、地輪幅70cmを超えるもの(完存であれば高さ200cm前後になる)は、香住

訓谷塔、宮津知恩寺塔(水輪のみ)、宮津文殊三角塔、八木大日寺塔の4基である。表には、比較的大型のものとして1300年代の紀年名を持つものを取り上げた。

瑞穂保井谷塔は、一石で高さ168cmを測り、五輪卒塔婆とも呼ばれ方形の柱の上に五輪塔を乗せたような形状である。

無縫塔 丹波2基で、1基は瑞穂町徳善寺の石塔群の中にある。京北町に1基あることは確認しているが個人蔵で所在地などは不明である。

石幢 9基を確認している。但馬に1基、丹後4基、丹波4基である。

笠塔婆 1300年代の紀年を持つものは、但馬1基、丹後2基、若狭1基の4基である。

板碑 板碑も各地に無数にあり、その全貌の把握は困難である。表には、1400年代初めころまでの紀年名を持つものを取り上げた。

付表3-1 石造物種類別一覧1 層塔・五輪塔
G = 花崗岩、A = 安山岩、T = 凝灰岩、D = 閃緑岩、B = 玄武岩

No	旧国郡	名称	所在地	石材	紀年	形状等	備考
1	但馬城崎	城崎 津居山八幡神社層塔	豊岡市	g		9重	
2	但馬出石	但東 中山金蔵寺層塔	豊岡市	g		5重以上	
3	但馬朝来	山東 森虎御前層塔	朝来市	g+t		9重	
4	但馬朝来	山東 大月慈照寺層塔	朝来市	g		7重	
5	但馬朝来	和田山 竹田常光寺層塔	朝来市	g		5重以上	
6	丹後与謝	伊根 本庄宇治来迎寺層塔	伊根町	g			
7	丹後与謝	伊根 菅野妙光寺層塔	伊根町	g		5重以上	
8	丹後与謝	加悦 温江大虫神社層塔	与謝野町	g		5重	
9	丹後与謝	加悦 香河関戸層塔	与謝野町	g		3重	
10	丹波桑田	亀岡 宮前金輪寺層塔	亀岡市	g	延応2 (1240)	5重	
11	丹波桑田	亀岡 宮前金輪寺層塔	亀岡市	g	正応5 (1292)	9重	
12	丹波桑田	亀岡 宮前宝林寺層塔	亀岡市	g	正応5 (1292)	9重	
13	丹波桑田	亀岡 本梅西加舎延福寺層塔	亀岡市	g	延文3 (1358)	13重	
14	丹波桑田	亀岡 本梅中野永徳寺層塔	亀岡市	g		9重	
15	丹波桑田	亀岡 本梅西加舎鹿千軒寺層塔	亀岡市	g		13重	現米国
16	丹波桑田	亀岡 東別院東掛春現寺層塔	亀岡市	g		5重	

No	旧国郡	名称	所在地	石材	紀年	形状等	備考
1	但馬美合	香美 香住訓谷五輪塔	香美町	a	文安1 (1444)		
2	丹後中	大宮 三重西垣薬師堂五輪塔	京丹後市		正安3 (1301)		
3	丹後中	大宮 三重西垣墓地五輪塔	京丹後市		延文5 (1360)		
4	丹後中	大宮 三重西垣墓地五輪塔	京丹後市		永徳2 (1382)		
5	丹後中	大宮 三重西垣五輪塔	京丹後市		嘉慶3 (1389)		
6	丹後与謝	宮津 金剛心院五輪塔	宮津市	g			
7	丹後与謝	宮津 難波野墓地五輪塔	宮津市		明徳4 (1393)		
8	丹後与謝	宮津 正法寺跡五輪塔	宮津市		応永3 (1396)		
9	丹後与謝	宮津 成相寺五輪塔	宮津市	g			
10	丹後与謝	宮津 成相寺五輪塔	宮津市		永徳3 (1883)		残欠
11	丹後与謝	宮津 橋立知恩寺五輪塔	宮津市	d		水輪のみ	
12	丹後与謝	宮津 文殊三角五輪塔	宮津市	g			
13	丹後与謝	宮津 宮町如願寺五輪塔	宮津市	g	正和1 (1312)		
14	丹後与謝	加悦 福井古墓五輪塔	与謝野町	g	元徳4 (1332)		
15	丹波天田	福知山 福知山城石垣五輪塔	福知山市	a	延文4 (1359)		残欠
16	丹波船井	日吉 中世木普門院五輪塔	南丹市	g			
17	丹波船井	瑞穂 保井谷五輪塔	京丹波町	g	康永4 (1345)	五輪卒塔婆	一石
18	丹波船井	八木 北条大日寺五輪塔	南丹市	g			
19	丹波桑田	亀岡 安西光寺五輪塔	亀岡市		建武3 (1336)		残欠

付表3-2 石造物種類別一覧2 宝塔・無縫塔・石幢・笠塔婆・板碑
G = 花崗岩、A = 安山岩、T = 凝灰岩、D = 閃緑岩、B = 玄武岩

宝塔							
旧国郡	名称	所在地	石材	紀年	形状等	備考	
1	但馬城崎 日高 赤崎進美寺宝塔	豊岡市	t		身のみ		
2	丹波桑田 亀岡 千歳蔵宝寺宝塔	亀岡市	g				
無縫塔							
旧国郡	名称	所在地	石材	紀年	形状等	備考	
1	丹波船井 瑞穂 質美徳善寺無縫塔	京丹波町	g				
2	丹波桑田 京北	京都市					
石幢							
旧国郡	名称	所在地	石材	紀年	形状等	備考	
1	但馬朝来 山東 大月慈照寺石幢	朝来市	b				
2	丹後竹野 丹後 上野清所宮石幢	京丹後市	a				
3	丹後竹野 丹後 此代安楽寺石幢	京丹後市	a	大永2 (1522)			
4	丹後与謝 伊根 本庄宇治来迎寺石幢	伊根町	a	至徳2 (1385)			
5	丹後与謝 宮津 府中長福寺石幢	宮津市		応永8 (1401)		現橋本岡雪部	
6	丹波何鹿 綾部 鍛冶屋墓地石幢	綾部市	a				
7	丹波天田 夜久野 大油子清海寺跡石幢	福知山市	b				
8	丹波氷上 市島 岩戸寺石幢	丹波市	a				
9	丹波桑田 亀岡 馬路三ツ辻石幢	亀岡市	d	文安1 (1444)			
笠塔婆							
旧国郡	名称	所在地	石材	紀年	形状等	備考	
1	但馬出石 但東 中山金蔵寺笠塔婆	豊岡市	g	正和4 (1315)	種子		
2	丹後熊野 久美浜 本願寺笠塔婆	京丹後市	g	正安4 (1302)	種子		
3	丹後加佐 舞鶴 安岡墓地笠塔婆	舞鶴市	a	応永1 (1394)	種子		
4	若狭大飯 高浜 山中西林寺笠塔婆	高浜町	t	永和3 (1377)	題目		
板碑							
旧国郡	名称	所在地	石材	紀年	西暦	形状等	備考
1	但馬朝来 和田山 土田観音堂板碑	朝来市	g	応安7 (1374)	(1374)	阿弥陀如来	
2	丹後与謝 宮津 本坂道板碑	宮津市	t	貞和4 (1348)	(1348)	如法経	
3	丹後与謝 宮津 本坂道板碑	宮津市	g	延文3 (1358)	(1358)	地藏菩薩	
4	丹後与謝 宮津 本坂道板碑	宮津市	t	明德3 (1392)	(1392)	大日種子	
5	丹後与謝 宮津 本坂道板碑	宮津市	t	応永10 (1403)	(1403)	地藏菩薩	
6	丹後与謝 宮津 本坂道板碑	宮津市	g	応永18 (1411)	(1411)	題目	
7	丹後与謝 宮津 成相寺板碑	宮津市	t	永和5 (1379)	(1379)	大日種子	
8	丹後与謝 宮津 文殊保昌塚板碑	宮津市	g	元応2 (1320)	(1320)	大日種子	
9	丹後与謝 宮津 金屋谷国清寺板碑	宮津市	a	永徳2 (1382)	(1382)	地藏菩薩	
10	丹後与謝 宮津 金屋谷妙照寺板碑	宮津市		応永15 (1408)	(1408)		
11	丹後与謝 加悦 後野西光寺板碑	与謝野町	a	応永16 (1409)	(1409)	五輪塔	
12	若狭大飯 高浜 山中西林寺板碑1	高浜町	t	応安7 (1374)	(1374)	種子	
13	若狭大飯 高浜 山中西林寺板碑2	高浜町	t	応安7 (1374)	(1374)	種子	
14	丹波何鹿 綾部 睦寄光明寺板碑	綾部市	a	永徳2 (1382)	(1382)	種子町石	
15	丹波桑田 亀岡 犬甘野常泉寺道板碑	亀岡市	g	永和2 (1376)	(1376)	大日種子	

石仏 各地に無数にあり、その全貌の把握は困難である。表には、1400年代前半までの紀年名を持つものを取り上げた。

燈籠 20基を確認している。丹後15基、奥丹波2基、口丹波3基である。かねてから言われているように、丹後に多いことは注目される。

狛犬 丹後1基、宮津籠神社の狛犬である。小型狛犬については、京丹後市大宮町高森神社文和4(1355)年銘のものなどがあるが、十分確認できていない。

5. まとめ

京都府を含む近畿北部は宝篋印塔をはじめ多くの石造物が残されており、宝篋印塔では中心飾りを持つものの盛行など独自の文化圏を設定できるものと考えている。研究対象として魅力的な地域であ

るが、十分に研究が進んでおらず、個々の石造物の形式的な研究、石材、分布や流通といった研究課題が多数残されている。基本的には、全体を網羅する悉皆調査の実施が望ましい所であるが、先人の多くの報告や知見があり、これをもとに資料の充実をはかりながら検討を進めていかなければならない。

最後に個々の課題を羅列するのみになるが、主なものをあげてまとめとしておきたい。

(1)五輪塔・一石五輪塔

宝篋印塔は、1300年代後半から増加し小型化が進む状況がある。五輪塔も1400年代から増加するもので、小型化が進むものと考えている。

但馬・丹後・奥丹波の寺院や墓地に小型の板碑類や五輪塔の集積がみられるが、五輪塔

付表3-3 石造物種類別一覧3 石仏、燈籠、狛犬、摩崖仏
G = 花崗岩、A = 安山岩、T = 凝灰岩、D = 閃緑岩、B = 玄武岩

石仏						
旧国郡	名称	所在地	石材	紀年	形状等	備考
1	但馬朝来 朝来 岩津鷲原寺石仏	朝来市	t	永仁4 (1296)	阿弥陀如来	
2	但馬朝来 朝来 岩津岩屋観音石仏群	朝来市	g	永仁4 (1296)	不動明王他	
3	丹後熊野 久美浜 鹿野八幡神社石仏	京丹後市	t	建久7 (1196)	二尊	
4	丹後熊野 久美浜 神谷神社石仏	京丹後市	t	建永2 (1207)	童子	
5	丹後熊野 久美浜 三分善福寺石仏	京丹後市	t	建仁2 (1202)	釈迦三尊	
6	丹後熊野 久美浜 品田地蔵堂石仏	京丹後市		貞和3 (1346)	地蔵菩薩	
7	丹後竹野 網野 生野内大慈寺	京丹後市	a	応安5 (1372)	二尊	
8	丹後与謝 宮津 日置金剛心院石仏	宮津市	g	嘉暦4 (1329)	地蔵菩薩	
9	丹後与謝 宮津 成相寺石仏	宮津市	g	康安2 (1362)	地蔵菩薩	
10	丹波天田 福知山 川北東禅寺石仏	福知山市		貞治3 (1364)	大日如来	
11	丹波天田 福知山 篠尾円応寺石仏	福知山市	d	応永18 (1411)	地蔵菩薩	
12	丹波船井 日吉 海老谷威音寺石仏	南丹市		応永12 (1405)	阿弥陀如来	
13	丹波桑田 亀岡 犬甘野薬師堂石仏	亀岡市	d?	応永3 (1344)	阿弥陀如来	

燈籠						
旧国郡	名称	所在地	石材	紀年	形状等	備考
1	丹後熊野 久美浜 鹿野八幡神社燈籠	京丹後市	t	応永24 (1417)		
2	丹後竹野 弥栄 溝谷神社燈籠	京丹後市	g			
3	丹後竹野 弥栄 黒部福昌寺燈籠	京丹後市	g			
4	丹後中 大宮 周枳大宮売神社燈籠	京丹後市	g	徳治2 (1307)		
5	丹後中 大宮 周枳大宮売神社燈籠	京丹後市	g			
6	丹後与謝 伊根 本庄宇治宇良神社	与謝野町	g			現京都市
7	丹後与謝 宮津 大垣籠神社燈籠	宮津市	g	嘉元3 (1305)		
8	丹後与謝 野田川 岩屋雲岩寺燈籠	与謝野町	g			現京博
9	丹後与謝 野田川 四辻八幡神社燈籠	与謝野町	a	永和4 (1378)		
10	丹後与謝 野田川 下山田菩提寺跡燈籠	与謝野町	a	応永33 (1426)		
11	丹後与謝 加悦 加悦天満神社燈籠	与謝野町	g			
12	丹後加佐 舞鶴 紺屋桂林寺燈籠	舞鶴市	g			
13	丹後加佐 舞鶴 河辺中八幡神社燈籠	舞鶴市	a	貞治3 (1364)		
14	丹後加佐 舞鶴 朝来田口神社燈籠	舞鶴市	g	享徳3 (1454)		
15	丹後加佐 舞鶴 河辺観音寺燈籠	舞鶴市	t	文亀1 (1501)		
16	丹波天田 福知山 堀一宮神社燈籠	福知山市	g			
17	丹波氷上 市島 竹田清園寺燈籠	丹波市	d	貞和3 (1347)		
18	丹波船井 八木 神吉阿祇園寺燈籠	南丹市	g			
19	丹波桑田 亀岡 稗田野佐伯稗田野神社燈籠	亀岡市	g			
20	丹波桑田 亀岡 曾我部与能神社燈籠	亀岡市	d	応永21 (1414)		

狛犬						
旧国郡	名称	所在地	石材	紀年	形状等	備考
1	丹後与謝 宮津 大垣籠神社狛犬	宮津市	a			

磨崖仏						
旧国郡	名称	所在地	石材	紀年	形状等	備考
1	丹後中 大宮 延利駒返し滝摩崖仏	京丹後市	g	貞和5 (1349)	地蔵菩薩	
2	但馬朝来 朝来 岩津岩屋観音石仏群	朝来市	g		大日如来	

付表4 紀年名石造物年代別集計表

	府全体	丹後・丹波	宝篋印塔	五輪塔	層塔	燈籠	石幢	石仏	板碑	一石五輪塔	その他
～1199	6	1							1		
1200	9	1			1						
1250	47	2			2						
1300	58	15	2	5		3		2	2		1
1350	68	44	22	7	1	2	1	4	6		1
1400	97	72	28	4		3	2	10	25		
1450	81	44	14	7		1			20	口丹波 丹後	2
1500	160	62	12	8		1			24	7	1
1550	385	107	9	12					53	24	3
合計	911	348	87	43	4	10	3	16	131	31	4

は組み合わせ式のものも多く、小型の板碑類(小石仏)が主体である。一石五輪塔は石龕に伴うもので、一石五輪塔が単独で作られることは少ないものと考えている。一石五輪塔で紀年名を持つものは京北町 常照皇寺 永正5年(1508)塔が最も古く、このころから口丹波船井郡・桑田郡では一石五輪塔が盛行するものと推測され、奥丹波以北と異なる状況となっている。また、紀年銘を持つものは京北町に集中している。

(2) 笠塔婆、板碑、石仏

1400年代から増加し、小型化、粗雑化するもので、各報告で塔婆、板碑、石仏の区別が曖昧となっている。種子、尊像、名号などの主題と、形状の組み合わせが多様であり、系統だった統一的な分類が必要である。

(3) 宝篋印塔

宝篋印塔の分類指標として、塔身の上下、すなわち基礎上部と屋蓋(笠)下部の形状がある。この部分が段形か反花・請花かをもって三つに分類した。次に、基礎の装飾を基準に、無地のを「0」、通有の格狭間のを「1」とし、格狭間に蓮華文を持つものを「2」、「蝙蝠座間」と呼ばれることもあった中心飾りを持つものを「3」とした。この組合せによって、A-1、A-2～C-3として表記している。

基礎上部と屋蓋下部の形状	基礎の装飾
A = 基礎上部段形、屋蓋下部段形	0 = 無地
B = 基礎上部反花、屋蓋下部段形	1 = 格狭間
C = 基礎上部反花、屋蓋下部反花	2 = 格狭間に蓮華文
	3 = 中心飾付格狭間

なお、「C」としたものは、「特殊宝篋印塔」と呼称されてきたものであるが、特殊の定義があいまいであり「請花式宝篋印塔」と呼ぶことを提案している。

近畿北部では、A-1、A-3、B-1、C-1の各形式が、時間差と地域性をもって出現している。宝篋印塔については、隅飾りの形状や格狭間の形状などの形態を比較することで、丹後独自の形式の設定が可能であり、前後関係や系統性を明らかにすることも可能になるものと考えている。

(4) 帯磁率測定について

岩石の科学的特性を把握する方法として帯磁率測定^(注4)がある。物質に磁場を与え、その磁化の程度を示したものが帯磁率(磁化率)である。岩石であれば、含まれる磁鉄鉱など磁性鉱物の量を反映している。

花崗岩は鉄鉱物を含んでおり、西南日本では大きくは帯磁率の高い磁鉄鉱からなる山陰帯と帯磁率の低いチタン鉄鉱からなる山陽帯・領家帯に分けられ、但馬・丹後・奥丹波は山陰帯に、口丹波は山陽帯に属する。つまりは、同じ花崗岩であっても、帯磁率の差によって細分できる可能性がある。

帯磁率測定は、石造物の各部材ごとにできるだけ均等に5か所計測し、平均値を出している。部材ごとに大きな差があるものは、別の個体として処理をしている。これは、石材産出地が同じ岩体であっても場所によって成分(帯磁率)が異なるものか、別の岩体に由来するものか判断できないため、別のものとして取り扱っている。

現在、調査と分析を進めており結果を提示するには至っていないが、花崗岩製の石造物の帯磁率を付表5に一例として示しておきたい。

但馬・丹後・丹波の花崗岩石造物の帯磁率は、おおむね $1 \sim 9 \times 10^3$ S Iの範囲にある。 $1 \sim 3 \times 10^3$ S I、 $6 \sim 8 \times 10^3$ S I、 15×10^3 S I以上の3つには区分できそうであり、

付表5 花崗岩製石造物帯磁率

旧国郡	名称	所在地	紀年	西暦	帯磁率 ($\times 10^{-3}$ SI)	備考
丹後中	峰山 橋木縁城寺宝篋印塔	京丹後市			1.002	
丹後与謝	宮津 由良採石場跡(転石)	宮津市			1.769	
丹後与謝	野田川 岩屋雲岩寺宝篋印塔	与謝野町			2.643	
丹後与謝	宮津 奈良海岸東端の島露頭	宮津市			2.733	
丹後与謝	宮津 由良如意寺宝篋印塔	宮津市			3.018	
丹後与謝	宮津 橋立保昌塚板碑	宮津市	元応2	1320	6.208	
丹後与謝	宮津 大垣籠神社燈籠	宮津市	嘉元3	1305	6.610	
丹後与謝	加悦 天満神社燈籠	与謝野町			8.788	
丹波天田	福知山 野際宝篋印塔	福知山市	文和2	1353	16.413	
丹波天田	福知山 堀一宮神社鳥居	福知山市	昭和39	1964	0.078	ヒメジ銘

石造物の形態などと組み合わせることによって流通や伝播といった問題を石材から検討することができるものと考えている。

例えば、近代の資料であるが、福知山市内に「昭和三十九年七月吉日再建／ヒメジ 石工 奥田重吉」と刻銘された鳥居があって、その帯磁率は $0.078 \times 10^{-3} \text{ S I}$ と低いもので、帯磁率が低いとされる山陽帯の花崗岩として整合性があり、姫路から搬入されたものと推定する根拠となる。

(5) 石材について

おおまかには、花崗岩、閃緑岩、安山岩、玄武岩、凝灰岩が使われている。

花崗岩・閃緑岩は、粒度や含有鉱物に差があり、いくつかの採石地があったことが推測される。安山岩、凝灰岩についても同様である。玄武岩を使用した石造物は、福知山市夜久野町周辺にしか確認されていない。

最初にも記したが、年代によって使用する石材が変化しており、1300年代後半から、安山岩など花崗岩以外の石材の使用が顕著になる。

宮津籠神社狛犬、舞鶴河辺八幡神社燈籠などの石材は、安山岩で丹後を中心に宝篋印塔にも多用され、色調や気泡の状態など特徴があり、一定肉眼観察でも抽出できるものである。これを伊根周辺に産出地を求める説^(注5)があり、筆者は継続して露頭(転石)の調査を行っているが未だ同様の岩石を確認できていない。また、安山岩は丹後半島西岸から但馬地域にかけて広く産出しており、石材の供給が一元的ではない可能性は大きい。中世に石材が伊根石と呼ばれ特産品的に流通したとは考えられないもので、この安山岩を伊根石と呼称することは、根拠の薄いものであり歴史的な用語としても慎むべきであろう。

現在、帯磁率測定と岩相観察を行い資料の蓄積を続けている^(注6)。この2つの手法は、非破壊で岩石の科学的特性を把握できるもので、現地で簡便にできる点、客観的な記録を作成し第三者の検証が可能なもので文化財や出土資料の検討には有効な手法である。

帯磁率測定の目的として石材の産地同定があるが、帯磁率だけで産地を特定できるものではなく、言うまでもなく産地同定は容易ではない。しかし、石材の産地同定に至らずとも、石材を区分する要素として活用できるものであり、石材の帯磁率と岩相による石造物の分類を検討している。

当たり前のことであるが、発掘調査で出土した土器を検討する際に、周辺遺跡で出土した土器と胎土や技法など比較検討し、その年代観や特徴、交流の様子などを考察しているが、同様に石材も一定の範囲内の資料を丹念に見て、比較検討する基準を持つておく必要がある。地道な資料収集の重要性を改めて感じている。

今回、確認のため改めていくつかの石塔を見たが、舞鶴海臨寺宝篋印塔、高浜正楽寺宝

筐印塔、高浜西林寺板碑など、基準資料として最重要の資料であるが、石材の性質かここ数年で急激に風化が進み失われようとしている。こうした石塔類が適切に保存されるよう、重要性を理解いただければ幸いである。

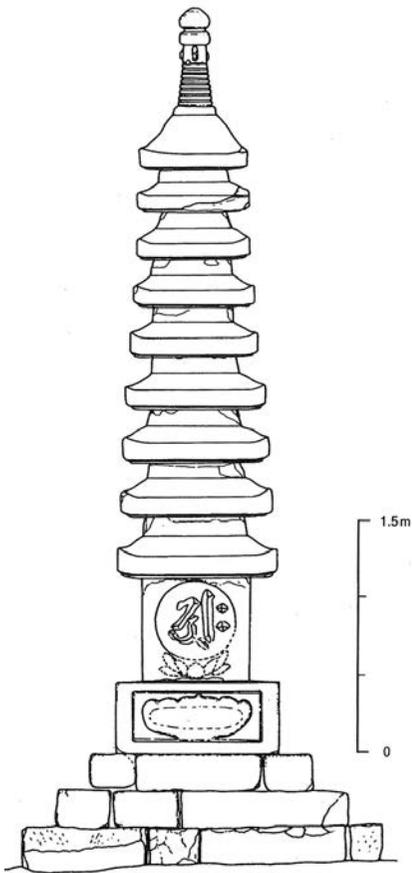
(さきやま・まさと = 当調査研究センター調査課副主査)

- 注1 宝篋印塔728基のうち紀年銘のあるものは113基で、紀年銘資料の特徴からおおよその時期を推定している。崎山正人2013「近畿北部の宝篋印塔」『夜久野町史 第4巻』、崎山正人2019「丹後・丹波・但馬の中世石造物について—宝篋印塔を中心に」『学術材研究 第1集』
- 注2 先山徹2005「近畿地方西部～中国地方東部における白亜紀～古第三紀火成岩類の帯磁率・帯状配列の検討と歴史学への適用」『人と自然』No.15 pp.9-28、先山徹2013「花崗岩の識別と帯磁率による産地同定」『御影石と中世の流通』高志書院、先山徹・藤原清尚2002「兵庫県播磨地域に分布する、いわゆる竜山石の岩相と帯磁率」『文化財と探査』4巻 pp.73-81
- 注3 前掲注1
- 注4 前掲注2
- 注5 古川久雄2001「丹後伊根石の宝篋印塔(1)」『日引 第2号』
- 注6 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科の指導を受けている。

参考文献

- 市村高男編 2012『御影石と中世の流通 石材識別と石造物の形態・分布』高志書院
- 大石一久 2001「日引石に関する一考察」『日引』第1号
- 川勝政太郎 1972『京都の石造美術』木耳社
- 篠原良吉 1992「京都府石造年代表」『京都考古』64号
- 篠原良吉 1995「丹後岩滝の石造美術」『史迹と美術』653号
- 篠原良吉 1996「丹後中郡の石造美術」『史迹と美術』665号
- 篠原良吉 2001「丹後伊根町の石造美術」『史迹と美術』713号
- 篠原良吉 2001「丹後竹野郡の石造美術」『史迹と美術』714～716号
- 篠原良吉 2001「丹後久美浜町の石造美術」『史迹と美術』717号
- 篠原良吉 2010「丹後旧与謝郡・加佐郡の石造美術」『歴史考古学』63号
- 篠原良吉 2012「旧福知山市の石造美術」『歴史考古学』67号
- 篠原良吉 2014「綾部市の石造美術」『歴史考古学』68号
- 篠原良吉 2018「京都府の石造拾遺」『歴史考古学』75号
- 濱田謙次 1995「中世の石造文化財」『三和町史』上巻
- 濱田謙次 1995「石造文化財」『和知町史』第一巻
- 濱田謙次 1995・1996「中心飾付格狭間のある石造品(一・二)」『歴史考古学』36・38号
- 福澤邦夫 2009『石造文化財拓本集』第3巻 近畿編1
- 福澤邦夫 2012『石造文化財拓本集』第4巻 近畿編2
- 福澤邦夫・濱田謙次・辻民甫・篠原良吉 1998「中丹波の宝篋印塔」『歴史考古』43号

- 古川久雄 2003 「安寿姫塚宝篋印塔」『日引』第4号
真下克己 1991 『大浦の石造物』
松永修輔 2005 「石造文化財」『夜久野町史』第1巻 夜久野町
宮下五夫 1993 「兵庫県の宝篋印塔相輪の簡略型請花について」『歴史考古学』33号
宮下五夫 2001 「但馬の宝篋印塔にみられる二、三の手法について」『歴史考古学』48号
望月友善 1993 「京都の宝篋印塔」『歴史考古学』33号
望月友善 1997 「兵庫県の宝篋印塔」『歴史考古学』41号
亀岡市史編さん委員会 1996 「建築寺院」『新修亀岡市史』資料編第4巻
加悦町郷土史研究会 1989 『加悦町の石造物展』
京都府教育委員会 1982 『重要文化財縁城寺宝篋印塔修理工事報告書』
園部町教育委員会 1990 『園部町文化財調査報告』第7集 石造物調査
豊岡市教育委員会 1985 『但東町・出石町石造物調査資料』
福知山市教育委員会 1986 「福知山城跡」『福知山市文化財調査報告書』第9集



竹田清蘭寺燈籠

城崎津居山八幡神社層塔(1/50)
豊岡市文化財管理センター1996「石造九重塔解体
工事概要報告」『とよおか発掘情報』第1号より